

とよがわ
豊川水系河川整備基本方針

令和8年3月

長 崎 県

とよがわ
豊川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 豊川流域の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
1) 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	3
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 並びに河川環境の創出と保全に関する事項	3
3) 河川の維持管理に関する事項	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る 川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に 関する事項	5
 <参考図>	
豊川水系流域概要図	

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 豊川流域の概要

豊川は、長崎県対馬市上対馬町に位置し、その源を高麗山（標高 193m）に発し、山間部を北東に流下した後、豊湾に注ぐ、流域面積約 3.3km²、幹川流路延長約 1.8km の二級河川です。

流域の気候は、日本海型気候に属し、秋から初春にかけては大陸から冷たい季節風が吹くため冷え込むことが多く、年平均気温は約 15.9℃です。年降水量は、約 1,400mm で梅雨や台風の影響を受けるため、6月から9月にかけて雨量が多くなっています。

流域内の地形は、上流域は谷底平野、小起伏山地となっています。また下流域は谷底平野、三角州および海岸平野が広がっています。

流域内の地質は、ほぼ全域にわたり海成層砂岩および砂岩泥岩互層の堆積岩により形成され、下流域の一部は谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物の堆積岩で構成されています。

流域内の人口は、約 230 人であり、豊川下流域の集落に集中しています。平成 16 年 3 月には、対馬島の 6 町が合併を行ない新たに対馬市が誕生しています。市になる前の旧上対馬町の人口と世帯数は年々減少傾向にあり、昭和 45 年と比較すると、50 年間で人口はおよそ半分以下となっており、世帯数はおよそ 3 割減少しています。

流域内の産業は、就業人口で約 2 割が第一次産業でそのうち 8 割が水産業を占め基幹産業となっています。

豊川中流域には古墳時代の遺跡である豊大畑遺跡が位置し、またその下流には宗家 14 代島主将盛が館をかまえたとされる豊館跡があります。

豊川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は、以下のとおりです。

① 治水の概要

豊川における主な洪水としては、昭和 46 年 7 月、令和 6 年 6 月、令和 6 年 9 月があり、令和 6 年 9 月豪雨では、11 戸の家屋浸水、農地冠水被害が発生しています。

このような被害を受けてきましたが、戦後において河道改修は実施されておらず、洪水氾濫の危険性は高い状況にあります。

②利水の概要

豊川における水利用は、二級河川区間外において取水され、上水道水源として利用されていますが、近年、これらの水利用に大きな支障をきたすような渇水被害は発生していません。

③自然環境および河川利用状況

豊川流域は、9割以上が山林であり、下流部の低地に畑、居住地が集中しているという特徴をもっています。

豊川の上流域には、シイ・カシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林、ノグルミーコナラ群集が広く分布しています。下流域には、上流域で広く分布していた植生に加えて、市街地や畑雑草群落、竹林等が広がっています。

豊川の上流域は、瀬や淵が連続して形成され、河川周辺には河畔林が存在するなど、多様な動植物が生息・生育する良好な河川環境となっています。ここでは、純淡水魚であるタカハヤやコイのほか、重要種であるツシマアカガエル（準絶滅危惧：環境省レッドリスト（以下「環」という。）・長崎県レッドリスト（以下「長」という。））等の両生類、コヤマトンボ（準絶滅危惧：長）やモクズガニ、ミゾレヌマエビ等の底生動物、キクイタダキ（絶滅危惧ⅠB類：長）等の鳥類が確認されています。また、周辺の陸域ではツシマヤマネコ（絶滅危惧ⅠA類：環・長、国指定天然記念物）、ツシマテン（準絶滅危惧：環、国指定天然記念物）、イノシシ、ニホンジカ等の哺乳類も確認されています。

豊川の下流域は感潮区間となっており、汽水性の魚類や甲殻類が生息しています。ボラ、サヨリ、スズキ等の汽水・海水魚に加え、ニホンウナギ（絶滅危惧ⅠB類：環）、チチブ、ゴクラクハゼ等の回遊魚、底生動物ではカワスナガニ（準絶滅危惧：環・長）、ユビナガホンヤドカリ、アカテガニ等が確認されています。

豊川においては河川公園などの施設はなく、河川空間の利用は特段なされていません。

豊川の水質に関しては、公共用水域の類型指定を受けていませんが、令和2年度～令和6年度にかけて水道事業者による水質観測がなされており、その結果を見ると、有機物（全有機炭素(TOC)の量)は水道水質基準値(3.0mg/L以下)を満足しており、良好な水質となっています。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

豊川の整備にあたっては、安全・安心で快適な地域づくりをめざし、対馬市の社会・経済の発展に係わる諸計画（対馬市総合計画等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに河川の総合的な保全と利用を図っていきます。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川整備・保全に係わる取り組みの促進、河川の維持に係る取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

豊川においては、想定氾濫区域内の状況、県内バランス等を考慮し、計画規模の降雨により発生する流量を安全に流下させることのできる整備をめざします。

また、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化を踏まえ、計画規模を上回る規模の洪水や整備途上段階における施設能力以上の洪水に対し、水害リスク情報の共有や防災意識の啓発等のソフト対策を推進します。

さらに流域全体で連携した雨水貯留浸透機能による流出抑制対策や関係機関と連携した流域住民の適切な防災行動への支援、森林管理者等と連携した土砂・流木対策等、流域全体のあらゆる関係者が協働し水災害を軽減させる「流域治水」の普及・啓発に取り組みます。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の創出と保全に関する事項

河川水の利用に関しては、地域住民や対馬市等関連する他行政機関との綿密な連携による合理的な水利用の促進等、適正な水利用を図ることにより流水の正常な機能の維持に努めます。

また、河川環境の創出と保全に関しては、現在の生物の生息場等の良好な河川環境を存続させるため、多様な生物の生息・生育環境に配慮した河川整備に努めます。さらに、地域住民が水に親しめる場としての良好な河川空間整備を図ります。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、その機能を十分に発揮させるため適切に行います。

河川管理施設については、河川の巡視及び点検を行い、亀裂・陥没等の異常がない

かを確認し、異常が確認された場合には、必要に応じてその補修工事を実施します。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項

基本高水は、年超過確率 1/30 の規模の洪水とし、そのピーク流量は、基準地点しょう小学橋がくぼし（河口から 0.678 km地点）において $75\text{m}^3/\text{s}$ と設定し、これを河道へ配分します。なお、ピーク流量は、気候変動により予測される将来の降雨量の増加を考慮したうえで算定しています。

また、気候変動の状況、またその予測や降雨-流出特性の評価に係る技術・知見の蓄積、流域内の貯留・浸透機能及び沿川の遊水機能の変化等に伴う流域からの流出特性や河道の流下特性、並びに背後地の状況の変化など、基本高水のピーク流量の算出に係る前提条件が著しく変化することが明らかとなった場合には、必要に応じこれを見直すこととします。

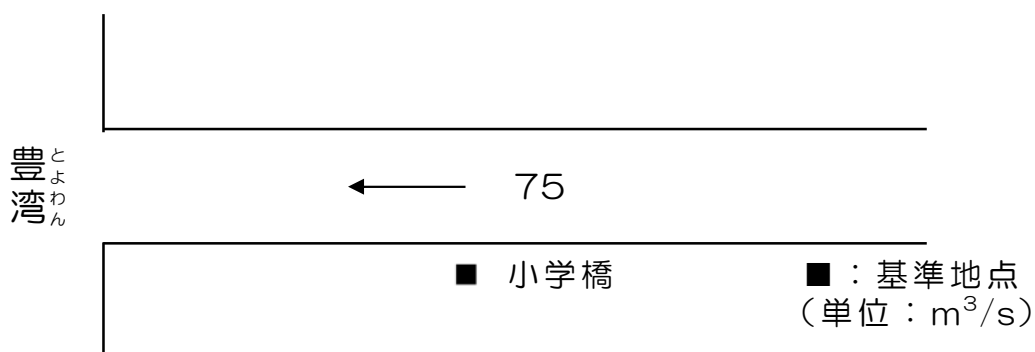
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位： m^3/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設等による調節流量	河道への配分流量
豊川	小学橋	75	—	75

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

豊川における計画高水流量は、基準地点小学橋において $75\text{m}^3/\text{s}$ とします。



豊川計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)	摘要
豊川	小学橋	0.68	+2.49	11.5	基準地点

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮のうえ、今後、必要に応じて調査検討を行います。



参考図 豊川水系流域概要図